

尾山神社

尾山神社は、加賀藩（現在の石川県を含む）の藩祖・前田利家（1537–1599）と、正室のまつ（1547–1617）を祀った神道の神社である。将軍以外の人物を神社に祀ることを阻止する法律が廃止されて間もない、1873 年に建立された。

1875 年に完成された神社の 3 層の神門は、1871 年に藩制度が終わった後でさえも、金沢の繁栄と重要性のシンボルとなった。日本と中国建築様式が融合し、ステンドグラスから見られる西洋風の独特のデザインは日本と中国建築様式が融合され、西洋の要素を取り入れた、この門の独特のデザインは、ステンドグラスに見られる。

木彫りの龍で飾られた東神門は、安土桃山時代（1568–1603）に見られた様式だ。これは、かつて金沢城にあった藩主の住居の一部で、多くの大規模な火事で焼き残った建造物のうちのひとつだ。